[重要]
Express5800/B140a-T ご使用にあたって

この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
Express5800/B140a-T(以下、本製品)をご使用いただくにあたり、一部注意事項があります。誠にお手数ではございますが、以下の内容をご確認の上、ご使用時には記載に基づき、然る対処を行っていただくようお願い申し上げます。また、本書は無くされないよう、大切に保管してください。

製品に関する詳細情報は、各製品に添付のユーザーズガイドを参照してください。なお、各ユーザーズガイドは、弊社情報発信サイト「8番街」でも参照いただけます。
「8番街トップ(http://nec8.com)」→「サポート情報」→「PCサーバ」
→「ユーザーズガイド(製品マニュアル)」

BTO(工場組込み出荷)で Windows OS の カスタムインストールを指定して購入時の注意

本装置をご使用になる前に、必ずWindows OSのパッケージに添付されている「マイクロソフト ソフトウェア使用許諾契約書」をお読みください。
本装置のご使用を開始することにより、お客様は「マイクロソフト ソフトウェア使用許諾契約書」に同意されたものとします。

2008年11月26日以前に購入の EMカード/ブレード収納ユニット(SIGMABLADE-H)ご使用時の注意

本製品の導入にあたり、下記の該当する製品をご利用の場合は、EMカードに対し、ファームウェアのアップデートを実施する必要があります。この作業を行っていただかないと、ブレードサーバが正常に動作しません。本製品をブレード収納ユニットに取り付ける前に、必ず実施していただきますようお願いいたします。

〈対象製品１〉
N8405-027 EMカード (2008年8月1日以前のご購入品)
N8405-024/034/024A/034A ブレード収納ユニット(SIGMABLADE-H) (〃)
〈対象レビジョン１〉
EM Firmware Revision: 03.41 および それ以前

〈対象装置２〉
N8405-043 EMカード (2008年11月26日以前のご購入品)
〈対象レビジョン２〉
EM Firmware Revision: 04.04 および それ以前

EMカードおよびブレード収納ユニットのファームウェアのアップデートは、下記の弊社情報発信サイト「8番街」より、最新のファームウェアをダウンロードして実施していただきますようお願いいたします。

－ ファームウェアの公開場所 －
「8番街トップ(http://nec8.com)」→「サポート情報」→「PCサーバ」
→「型番・モデル名から探す」→ ＜対象製品＞の型番を入力し、製品型番で検索

856-126964-902-00.

Windows Server 2008 カスタムインストールモデル
セットアップ時の注意

本製品をWindows Server 2008 カスタムインストールモデルでご購入の場合は、必ず下記の手順に従って セットアップをしてください。

※ユーザーズガイドの「セットアップの手順」（19～21ページ）を以下の内容と読み替えます。

セットアップの手順

次の手順で本体を起動して、セットアップをします。

オペレーティングシステムのセットアップ

オペレーティングシステムのセットアップ方法は、ブレード収納ユニットの種類や外付け光ディスクドライブなどの周辺機器の接続状況により異なります。

N8405-040ブレード収納ユニットに実装し、CPUブレードに接続したローカルでのインストール

1. ブレード収納ユニットに搭載されたオプションのEMカードのユーザーズガイドを参照して、内蔵光ディスクドライブを使用できるようにKVMとDVDの切替えを設定する。

   重要 セットアップが終了するまでKVMとDVDの切替えを行わないでください。

2. ユーザーズガイドの114ページ以降を参照して、ローカルコンソールを接続する。

3. CPUブレードの電源をONにする。
   しばらくすると1度システムが再起動します。
   再起動後、自動でWindowsにログオンします。

   重要 次回のログオンからは、パスワードの入力が必要になります。

4. ログイン後「初期構成タスク」画面が表示されるので、ユーザー情報を設定する。

5. 初期パスワードを変更する。

   重要 初期パスワードとして「NEC-user1」が設定されています。
   （大文字・小文字は区別されます）
   パスワードは必ず変更してください。

パスワードの変更方法は2種類あります。

変更方法１

① スタートメニューから[コントロールパネル]→[ユーザーアカウント]をクリックする。
② ユーザーアカウント画面の[パスワードの変更]をクリックする。
③ パスワードの変更画面でパスワードを変更する。
新しいパスワードは大文字・小文字・数字を含む6文字以上で設定します。

変更方法２

① <Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す。
② 表示される画面から[パスワードの変更]をクリックする。
③ パスワードの変更画面でパスワードを変更する。
新しいパスワードは大文字・小文字・数字を含む6文字以上で設定します。

以上でパスワードの変更は完了です。

6. ユーザーズガイドの「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ」（26ページ）を参照して、ネットワークドライバの詳細設定をする。

7. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

8. ユーザーズガイドの「障害処理のためのセットアップ」（41ページ）を参照して障害処理のためのセットアップをする。

9. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。
例として次のようなソフトウェアがあります。
   - ESMPRO/ServerAgent
   - エクスプレス通報サービス*
   - Universal RAID Utility*
   - Microsoft .NET Framework Version 2.0 再頒布可能パッケージ(x64)
   - Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再頒布可能パッケージ(x86)
   (CPUアーキテクチャに関わらず、(x86)を使用します)

   上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。
   ユーザーズガイド「ソフトウェア編」の「本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

10. ユーザーズガイドの「システム情報のバックアップ」（60ページ）を参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上で、カスタムインストールで購入された本装置での初めてのセットアップは終了です。
再セットアップをする際はユーザーズガイドの「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」(61ページ)を参照してください。

Windows Server 2008 ご使用時の管理用リモートデスクトップの設定

Windows Server 2008をご使用の場合に必要な管理用リモートデスクトップの設定について説明します。
Windows Server 2003 x64 EditionsやWindows Server 2003をご使用の場合は、ユーザーズガイドの81ページを参照してください。

重要 管理用リモートデスクトップを使用するのに、有償のターミナルサーバークライアントアクセスライセンスは必要ありません。管理用リモートデスクトップは、最大2つの同時接続が可能です。

チェック カスタムインストールモデルをご購入の場合は、管理用リモートデスクトップの設定は必要ありません。

フルインストールの場合

次の手順にしたがって設定します。

1. スタートメニューから［コントロールパネル］を選び、［システム］をクリックする。
2. ［システム］の［リモートの設定］をクリックする。
3. ［リモートデスクトップ］の［リモートデスクトップを実行しているコンピュータからの接続を許可する］にチェックし［OK］をクリックする。

Server Core インストールの場合

以下のMicrosoft 社のサポート技術情報を参照してください。
「Windows 2008 サーバーコアでのリモートデスクトップを有効にする方法」

ヒント Microsoft 社のサポートオンライン（http://support.microsoft.com/）から［KB555964］を入力し検索してください。

ESMPRO/ServerAgent (Linux 版) インストレーションガイド
セットアップ手順の注意事項について

「ESMPRO/ServerAgent (Linux 版) インストレーションガイド」の「ESMPRO/ServerAgent のセットアップ」の注意事項について説明します。
Red Hat Enterprise Linux 5.2でESMPRO/ServerAgentをマニュアルインストールする場合は、OSのオートマウント機能は使用せずに、手動でマウントしてください。
Red Hat Enterprise Linux 5.2では、EXPRESSBUILDERをDVDドライブに挿入した場合、noexecオプションでオートマウントされます。
EXPRESSBUILDERがnoexecオプションでマウントされた場合、ESMPRO/ServerAgentのインストールスクリプトが実行できませんので、noexecオプションを設定せずに手動でマウントして、インストールスクリプトを実行してください。

■手動マウントでのインストール手順

1. EXPRESSBUILDERをDVDドライブに挿入し、オートマウントされた状態で、/etc/mtabを参照して、EXPRESSBUILDERのマウントデバイス名を確認してください。
   下記の例の場合は、「/dev/scd0」となります。

   /etc/mtab例：

```
/dev/sda3 / ext3 rw 0 0
proc /proc proc rw 0 0
sysfs /sys sysfs rw 0 0
devpts /dev/pts devpts rw,gid=5,mode=620 0 0
/dev/sda1 /boot ext3 rw 0 0
tmpfs /dev/shm tmpfs rw 0 0
none /proc/sys/fs/binfmt_misc binfmt_misc rw 0 0
sunrpc /var/lib/nfs/rpc_pipefs rpc_pipefs rw 0 0
/dev/scd0 /media/5.40-001.03 iso9660 ro,noexec,nosuid,nodev,uid=0 0 0
```

2. オートマウントされたEXPRESSBUILDERをアンマウントしてください。
   コマンド例：
   ```
   # umount /medeia/5.40-001.03
   ```
3. EXPRESSBUILDERを手動マウントするときのマウント用ディレクトリを以下のコマンドで作成します。
   ここでは、/media/dvdディレクトリをマウント用ディレクトリとして、使用します。
   ```
   # mkdir -p /media/dvd
   ```
4. 1.で調べたデバイス名を指定して、EXPRESSBUILDERをマウントしてください。
   コマンド例：
   ```
   # mount /dev/scd0 /media/dvd
   ```

手動マウント後は、「ESMPRO/ServerAgent (Linux 版) インストレーションガイド」の「セットアップ」の手順に従って、ESMPRO/ServerAgentをインストールしてください。

サーバマネージメントドライバ、ESMPRO/ServerAgent は、EXPRESSBUILDER の以下のディレクトリに格納されています。

・B140a-T用サーバマネージメントドライバ
  002/lnx/pp/svmdrv/
・B140a-T用ESMPRO/ServerAgent
  002/lnx/pp/esmpro_sa/

ユーザーズガイドの誤記訂正

Processor Settingsサブメニュー

ユーザーズガイド　P.１６０

記　載　追　加
重要　**N8400-079では、Intel SpeedStep(R) Technologyは未サポートです。**

RAIDシステムコンフィグレーションでの画面表示

搭載されているFWレビジョンにより、一部画面表示が異なる場合があります。

バーチャルディスク作成時の注意事項

ユーザーズガイド　P.１９２

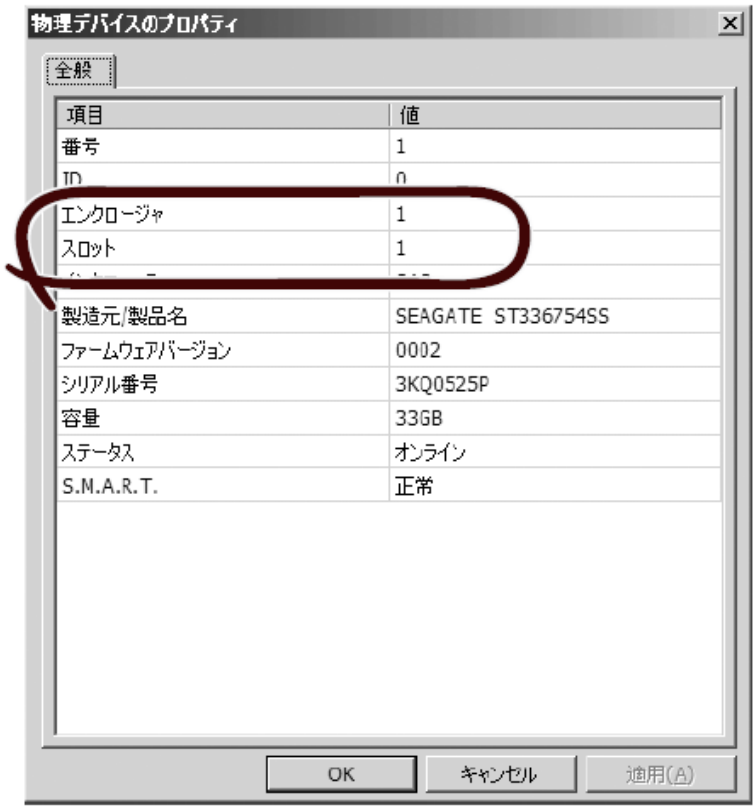
記　載　削　除

５．WebBIOSのPhysical DriveとUniversal RAID Utilityの物理デバイスの対応は、以下の情報で判断します。

：

：

Universal RAID Utilityの物理デバイスのプロパティ画面



Main Menu

ユーザーズガイド　P.１９５

記　載　削　除
重要 Physical Drives欄で表示される番号(X:X:X)は、コネクタ番号：エンクロージャ番号：スロット番号を表します。本装置では、コネクタ番号は未サポートのため「( )」と表示されます。 エンクロージャ番号は常に「1」になります。スロット番号はディスクベイのスロット番号を表します。

Adapter Properties

ユーザーズガイド　P.１９６

記　載　削　除
設定情報画面は次のページにもあります。[Next]をクリックすると、次のページの詳細設定を表示することができます。

初期設定値および、設定値説明

ユーザーズガイド　P.１９７

記　載　削　除
<table><tr><td>Stop CC On Error</td><td>**No** Yes</td><td>整合性チェックで不整合を検出したときの動作を設定します。 No: 修復して継続します。 Yes: 中断します。</td><td>可</td><td></td></tr><tr><td>Maintain PD Fail History</td><td>**Disabled** Enabled</td><td>－</td><td>不可</td><td></td></tr><tr><td>Schdule CC</td><td>**Supported**</td><td>整合性チェックのスケジュール運転を設定します。</td><td>可</td><td></td></tr></table>

Configuration Wizard

ユーザーズガイド　P.２０７

誤	正
②　選択完了後、画面左下の[AddtoArray]をクリックします。	②　選択完了後、画面左下の[Accept DG]をクリックします。

記　載　削　除
③　画面右側 Disk Groupsの欄に、新しいDGが設定されます。DGの設定を確定するために、画面右下の[Accept DG]をクリックします。

ユーザーズガイド　P.２０８

記　載　削　除
⑤　DGの設定後、スパン定義画面が表示されます。 ： ： ⑦　スパン設定完了後、画面右下の[Next]をクリックします。

ユーザーズガイド　P.２０９

記　載　追　加
 本製品では、**BGI(Back Ground Initialize)**は未サポートです。

ユーザーズガイド　P.２１０

記　載　削　除
④　続けてVDの構築を行う場合は、[Back]をクリックしスパン定義画面から同様の手順で構築を行います。 ⑤　VDの構築が完了したら、[Next]をクリックします。

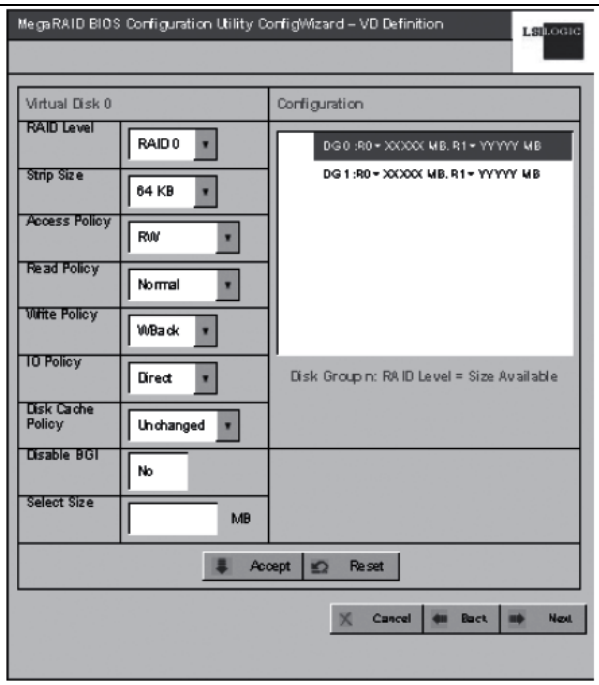
Configure SPAN

ユーザーズガイド　P.２１２

誤	正
③　選択完了後、画面右下の[AddtoArray]をクリックし、画面右側Disk Groups欄にDGが設定されたことが確認できたら[Accept DG]をクリックして確定します。	③　選択完了後、画面右下の[Accept DG]をクリックします。

ユーザーズガイド　P.２１３

誤	正
⑤　作成された2つのDGを用いてRAID10のスパンを設定します。 ： ： ⑫　“All data on the new Virtual Disks will be lost. Want to Initialize?”と新規VDに対しイニシャライズを実施するか否かを確認するメッセージが表示されます。通常は”Yes”をクリックしてください。	先程の操作により作成したDGを用いてRAID1のスパンを構築します。DG確定後、VD定義画面が表示されます。画面右側のConfiguration欄内には構築したDGと、DG内に構築可能なVDのRAIDレベルおよび最大サイズが表示されています。 （次ページへ続く）



⑤　画面右側 Configuration欄に表示されている二つのDGを、Ctrlキーを押しながら選択してください。

⑥　画面左側 Virtual Disk欄へ必要なパラメータを入力します。

⑦　"Select Size"欄へYYYYY × 2(各DGの最大容量 × DGの数)を入力します。

"Select Size"欄を入力するときは、各DGのRAIDレベルの最大容量にDGの数を掛けた値を入力してください。

ヒント　Disk Cache Policyは、オンボードRAID(MegaRAID ROMB)のファームウェアバージョンにより"Disable"と表示される場合があります。
運用上の問題はありません。

⑧　画面中央下、[Accept]をクリックします。

ヒント　Disk Cache Policyは、オンボードRAID(MegaRAID ROMB)のファームウェアバージョンにより"Disable"と表示される場合があります。
運用上の問題はありません。

⑨　DG 0内にVD 0が構築され、"Preview"画面が表示されます。

⑩　構築したVDに誤りがなければ、画面右下の[Accep]をクリックします。

⑪　"Save this Configuration?"と確認のメッセーが表示されますので、"Yes"をクリックします。

⑫　"Want to Initialize the New Virtual Disks?"と新規VDに対しイニシャライズを実施するか否かを確認するメッセージが表示されます。通常は"Yes"をクリックしてください。

VD Definition設定項目

ユーザーズガイド　P.２１６

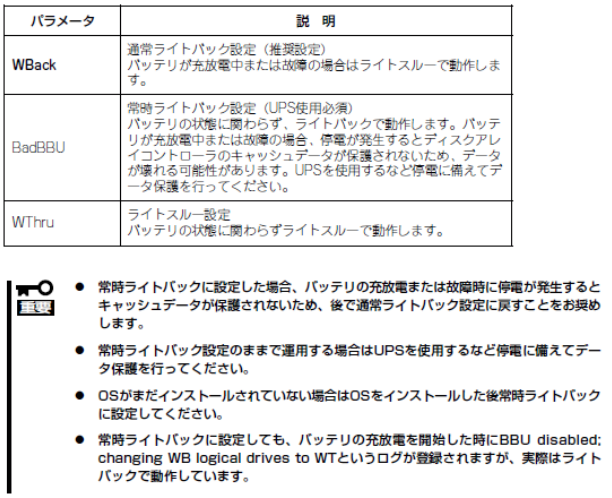
誤	正
WBack / WThru	WBack / WThru / BadBBU
WBack：ライトバック WThru：ライトスルー	WBack：通常ライトバック WThru：ライトスルー BadBBU：常時ライトバック 奨励設定値：WBack
本製品では、BGI（Back Ground Initialize）は未サポートです。	本製品では、BGI（Back Ground Initialize）は未サポートです。 Write PolicyをBadBBU（常時ライトバック）に設定した場合、バッテリの充放電や故障時に停電が発生するとディスクアレイコントローラのキャッシュデータが保護されないため、データが壊れる可能性があります。BadBBU（常時ライトバック）に設定する場合には、必ずUPSを使用してください。

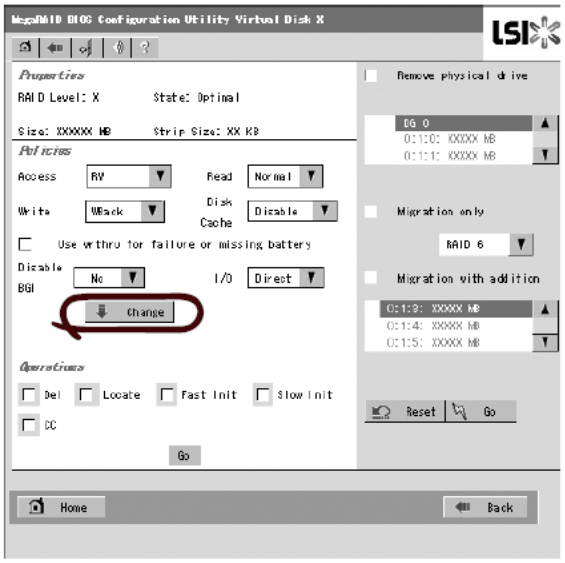
ユーザーズガイド　P.２１７

記　載　削　除

WrtThru for BAD BBU	**チェックあり**/ チェックなし	Write Policyをライトバックに設定している場合のモードを選択します。 チェックあり： 通常ライトバック チェックなし： 常時ライトバック 奨励設定値: チェックあり

ユーザーズガイド　P.２１７

誤	正
ライトキャッシュ設定(Write Policy)については、WrtThru for BAD BBUとの組み合わせにより、以下のモードがあります。お客様の環境に合わせて設定してください。 ： ： （次ページへ続く）	 パラメータ / 説　明 WBack：通常ライトバック設定（推奨設定） バッテリが充放電中または故障の場合はライトスルーで動作します。 BadBBU：常時ライトバック設定（UPS使用必須） バッテリの状態に関わらず、ライトバックで動作します。バッテリが充放電中または故障の場合、停電が発生するとディスクアレイコントローラのキャッシュデータが保護されないため、データが壊れる可能性があります。UPSを使用するなど停電に備えてデータ保護を行ってください。 WThru：ライトスルー設定 バッテリの状態に関わらずライトスルーで動作します。 重要 ● 常時ライトバックに設定した場合、バッテリの充放電または故障時に停電が発生するとキャッシュデータが保護されないため、後で通常ライトバック設定に戻すことをお奨めします。 ● 常時ライトバック設定のままで運用する場合はUPSを使用するなど停電に備えてデータ保護を行ってください。 ● OSがまだインストールされていない場合はOSをインストールした後常時ライトバックに設定してください。 ● 常時ライトバックに設定しても、バッテリの充放電を開始した時にBBU disabled; changing WB logical drives to WTというログが登録されますが、実際はライトバックで動作しています。

■本件に関するお問い合せについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

連絡先:	NECファーストコンタクトセンター
TEL:	03-3455-5800
受付時間:	9:00～12:00　13:00～17:00 月曜日～金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえご連絡ください。

Important Notice
NEC Express5800/B140a-T

This document contains important instructions for using the NEC Express5800/B140a-T. Read carefully before you use the system. Keep this document for future reference.

November 2008 or before SIGMABLADE-H

N8405-024F, N8405-027

If you use the NEC Express5800/B140a-T correctly, you need to update EM firmware to Rev. 03.45 or later. Contact NEC sales company of your region for firmware update.

N8405-043, N8405-040F

If you use the NEC Express5800/B140a-T correctly, you need to update EM firmware to Rev. 04.10 or later. Contact NEC sales company of your region for firmware update.

Errata for User's Guide

SYSTEM BIOS

4-11 Processor Settings
Added
IMPORTANT: N8400-079F does not support Intel SpeedStep(R) Technology.

RAID SYSTEM CONFIGURATION

4-40 Notes on Creating Virtual Disk
Deletion

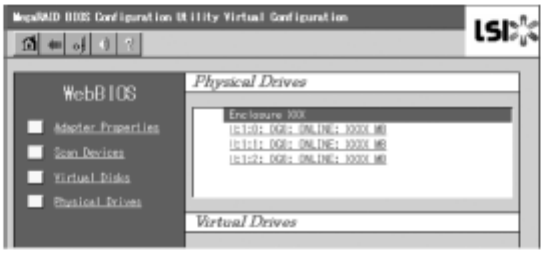
- The physical drive numbers shown in WebBIOS and those shown in Universal RAID Utility are identified as follows.
  - WebBIOS

    Enclosure number and Slot number shown in Physical Drives box*

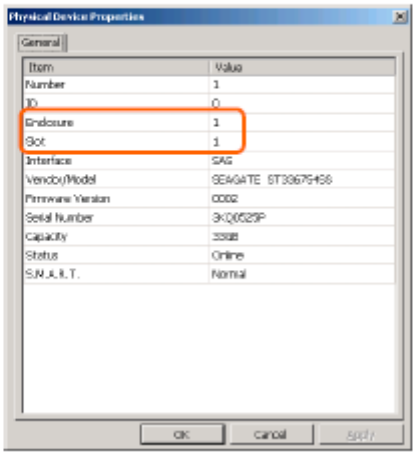
    * "X:X:X" shown in Physical Drives box represents Connector number:Enclosure number:Slot number. With this server, the Connector number is not supported, thus, it is always indicated as "()". The Enclosure Number is always "1". The Slot number represents a slot number of disk bay.
  - Universal RAID Utility

    Enclosure number and Slot number shown in Physical Device Properties

Note that the slot numbers shown in Physical Drives box of WebBIOS are represented by numbers beginning with 0, but those in Universal RAID Utility are numbers beginning with 1.



Physical Drives View of WebBIOS



Property of Physical Device in Universal RAID Utility

4-43 Main Menu

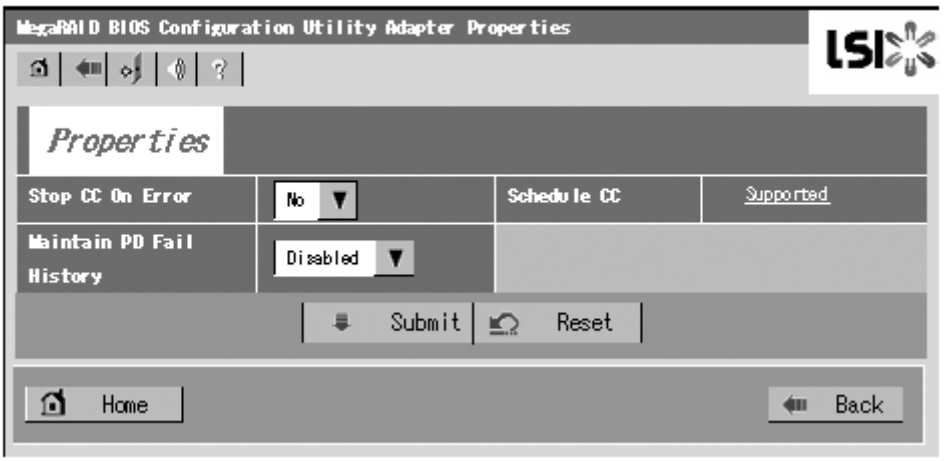
Deletion

IMPORTANT: "X:X:X" shown in Physical Drives box represents Connector number:Enclosure number:Slot number. With this server, the Connector number is not supported, thus, it is always indicated as "()". The Enclosure number is always "1". The Slot number represents a slot number of disk bay.

4-45 Adapter Properties

Deletion

The detailed settings is continued to the next page. Click [Next] to view more information.



4-46 Default Settings and their explanation

Deletion

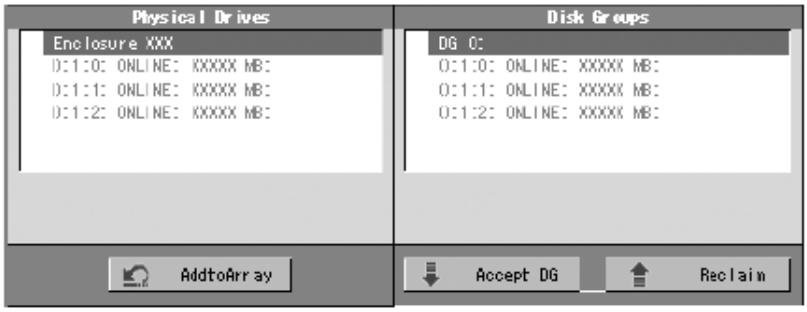
Stop CC On Error	[No] Yes	Specify the operation at error detection in Consistency Check. No: Recover and resume. Yes: Abort	Permitted
Maintain PD Fail History	[Disabled] Enabled	–	Prohibited
Schdule CC	Supported	Set the scheduled consistency check.	Permitted

4-57 Configuring Virtual Disk

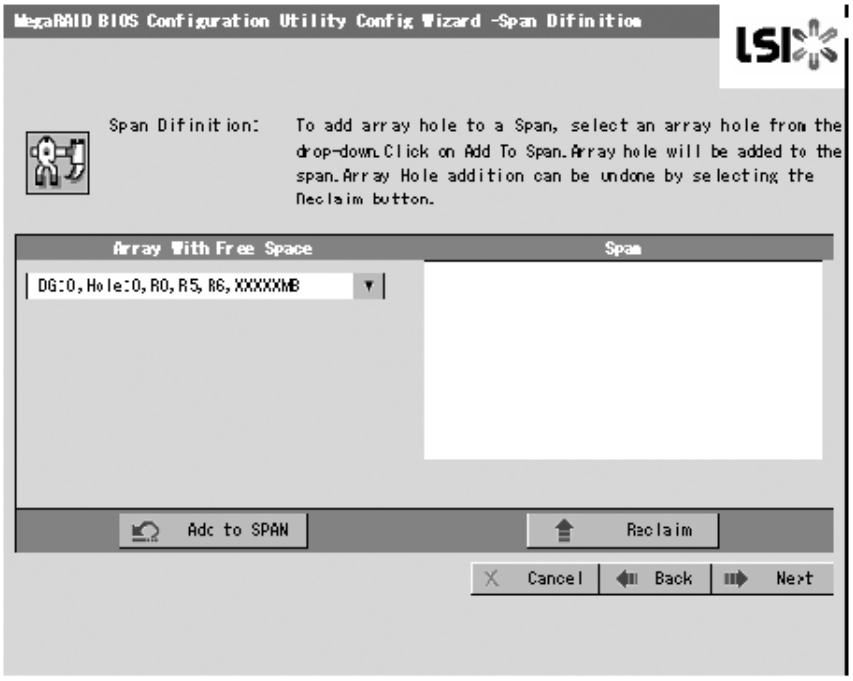
Incorrect	Correct
2. Upon completion of selection, click [Add to Array] at the lower left of the screen.	2. Upon completion of selection, click [Accept DG] at the lower left of the screen.

Deletion

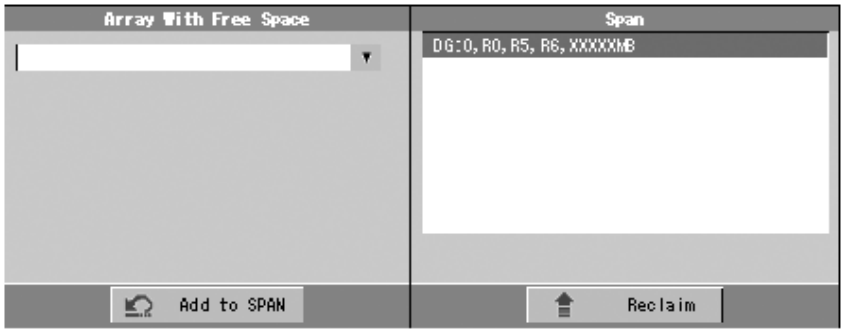
3. A new DG is defined in the Disk Groups frame. To define the new DG, click [Accept DG] at the lower right of the screen.



5. Then, the Span Definition screen appears.


MegaRAID BIOS Configuration Utility Config Wizard -Span Difinition
LSI
Span Difinition:
To add array hole to a Span, select an array hole from the drop-down. Click on Add To Span. Array hole will be added to the span. Array Hole addition can be undone by selecting the Reclaim button.
Array With Free Space
Span
DG:0, Hole:0, R0, R5, R6, XXXXXMB
Adc to SPAN
Reclaim
Cancel
Back
Next

6. Select a DG to define VD from "Array With Free Space" frame, then click [Add to SPAN]. The DG is defined in the "Span" field to the right.



7. After the Span has been defined, click [Next] at the lower right of the screen.

IMPORTANT:

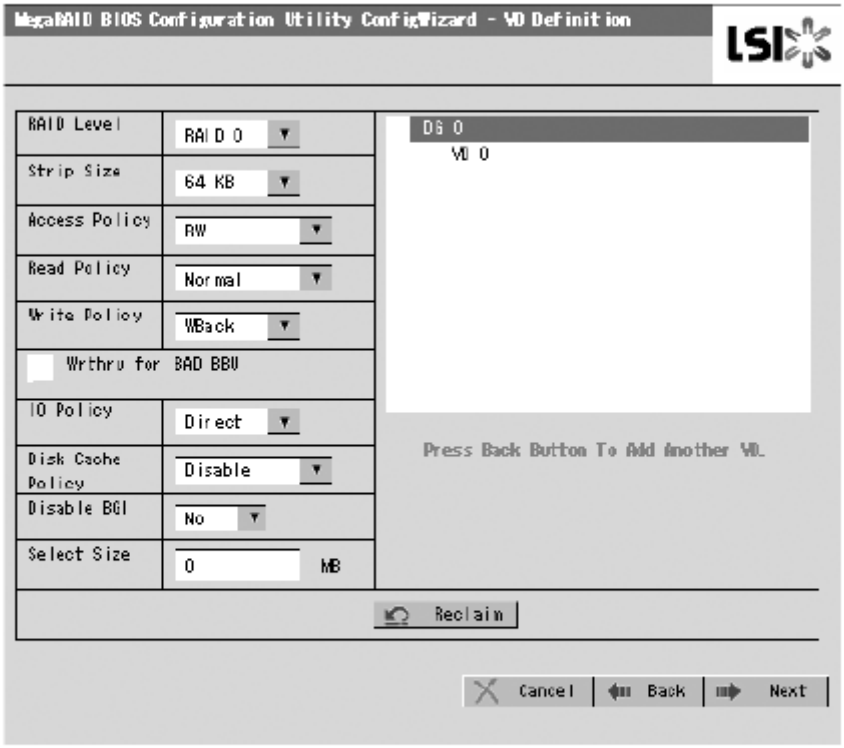
- To configure RAID0, 1, or 5, perform Span Definition to a single DG only. If you need to perform Span Definition to several DGs, define VD for the first DG, then select the next DG to define VD.
- Span Definition cannot be performed to DGs containing the different number of HDDs.

4-60 Configuring Virtual Disk
Added
IMPORTANT: The server does not support BGI (Back Ground Initialize) feature.

4-61 Configuring Virtual Disk
Deletion

4. If you want to define another VD, click [Back] and repeat steps starting from Span Definition screen.

5. Upon completion of VD definition, click [Next].



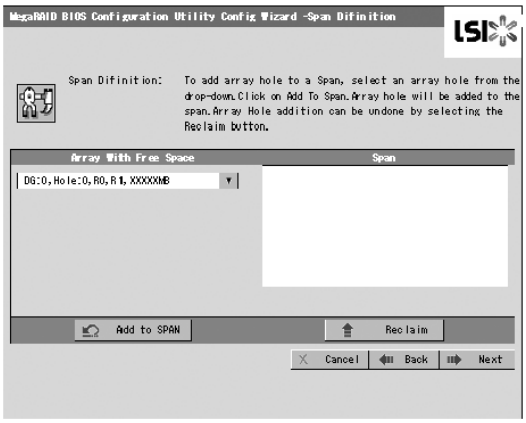
IMPORTANT: The value shown in "Select Size" indicates the maximum size allowed for RAID1 or RAID5. You need to specify the maximum size for RAID0 or RAID5 according to "Next LD, Possible RAID Levels".

4-65 Configure SPAN

Incorrect

3. Upon completion of selection, click [Add to Array] at the lower right od the screen. After making sure that the new DG has defined in Disk Groups frame to the right, click [Accept DG].

5. Configure RAID10 (spanning of RAID1) using the two DGs that have been created in previous step. When DGs were defined, [VD Definition] screen is displayed.


MegaRAID BIOS Configuration Utility Config Wizard -Span Difinition
LSI
Span Difinition:
To add array hole to a Span, select an array hole from the drop-down. Click on Add To Span. Array hole will be added to the span. Array Hole addition can be undone by selecting the Reclaim button.
Array With Free Space
Span
DG:0, Hole:0, R0, R1, XXXXXMB
Add to SPAN
Reclaim
Cancel
Back
Next

:

:

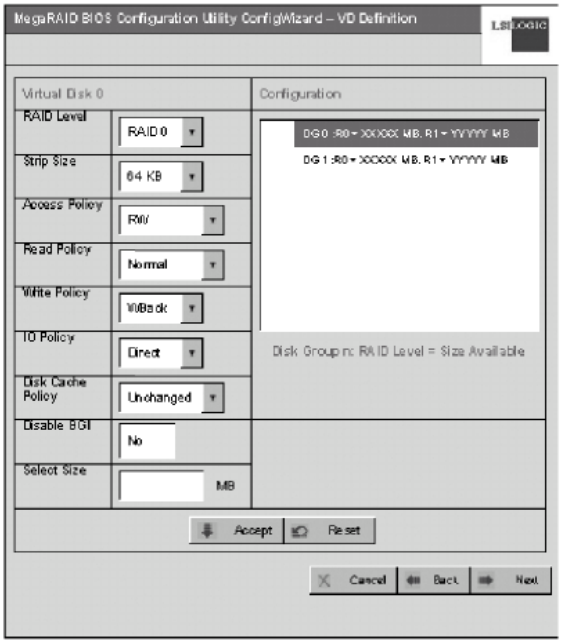
11. The confirmation message "Save this Configuration?" appears. Click "Yes" to save the configuration.

12. The confirmation message "All data on the new Virtual Disks will be lost. Want to Initialize?" appears. Normally, select "Yes".

Correct

3. Upon completion of selection, click [Accept DG] at the lower right on the screen.

Configure the spanning of RAID1 using the DG that has been created in previous step. When DG was defined, [VD Definition] screen is displayed. The defined DG is displayed in Configuration column. Available RAID levels and maximum size for VD are also displayed.



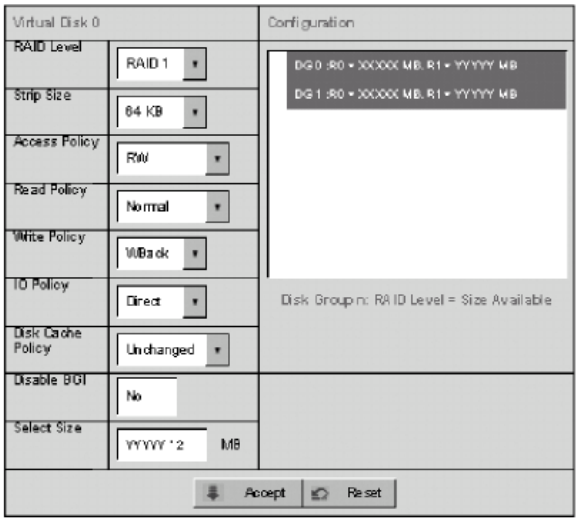
5. Hold **Ctrl** and click the two DGs in the Configuration column to select.

6. Specify the necessary parameters in Virtual Disk column.

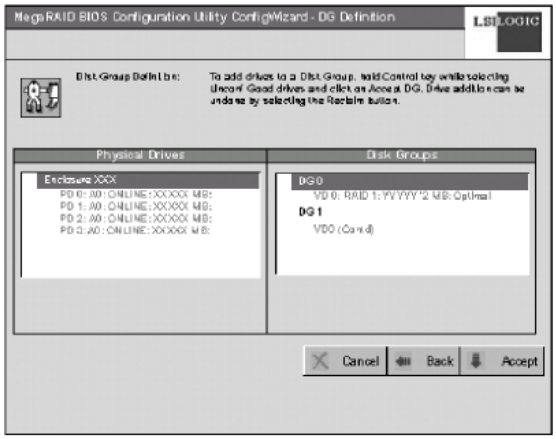
7. Enter YYYYY × 2 (multiply the maximum size of each DG by the number of DGs) in "Select Size" field.

IMPORTANT: To enter the value in "Select Size" field, multiply "the maximum size of each DG allowed for the RAID level" by the number of DGs.

8. Click [Accept] at the lower center of the screen.



NOTE: Disk Cache Policy field may be displayed as "Disable" depending on firmware version of on-board RAID (MegaRAID ROMB). It is not a problem in operating the system.

		9. VD 0 is created in DG 0 as shown in the [Preview] screen below.  10. After making sure that the VD is created correctly, click [Accept] at the lower right of the screen. 11. The confirmation message "Save this Configuration?" appears. Click "Yes" to save the configuration. 12. The confirmation message "Want to Initialize the New Virtual Disks?" appears. Normally, select "Yes".

4-69 Parameters for VD Definition

Incorrect	Correct
WBack / WThru	WBack / WThru / BadBBU
WBack: WriteBack WThru: WriteThru	WBack: Normal WriteBack WThru: WriteThru BadBBU: Constant WriteBack Recommended value: WBack
IMPORTANT: The server does not support BGI (Back Ground Initialize) feature.	**IMPORTANT:** ■ BGI (Back Ground Initialize) is not supported in this system. ■ While the Write Policy is set to BadBBU (constant write back), the data in cache memory of the disk array controller may not be protected from being damaged if the power failure occurs due to charge/discharge or defect of the battery. Be sure to use UPS when specifying BadBBU for write policy.

4-69 Parameters for VD Definition

Deletion

WrtThru for BAD BBU	**Checked** / Unchecked	Select a mode when WriteBack is specified for Write Policy. Checked: Normal WriteBack Unchecked: Constant WriteBack Recommended value: Checked

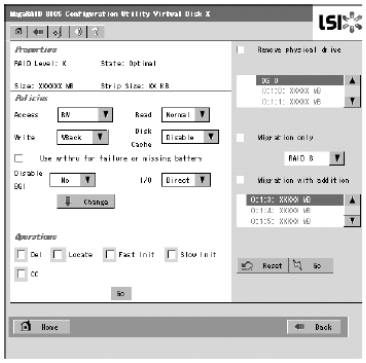
4-70 Parameters for VD Definition

Incorrect

The Write Policy has the following modes depending on combination with WrtThru for BAD BBU. Select a mode suitable for your environment.

		WrtThru for BAD BBU	
		Checked	Unchecked
Write Policy	WBack	Normal write back mode (recommended) This mode is available only when N8103-120 RAID Battery Backup Unit is installed. The controller uses cache memory for writing. However, if the battery is being charged or failed, the controller operates in WThru (write through) mode automatically. Thus, this mode can provide higher data security.	Constant write back mode This mode is available even if N8103-120 RAID Battery Backup Unit is not installed. The controller always uses cache memory for writing. In this mode, the data in cache memory may not be protected from being damaged if the power failure occurs due to charge/discharge or defect of the battery. Be sure to use UPS when specifying this mode for write policy.
	WThru	Write through mode This mode is recommended when N8103-120 RAID Battery Backup Unit is not installed. The controller does not use cache memory for writing data.	* This mode is unavailable. If you do not check "WrtThru for BAD BBU" at creation of VD, this item is automatically checked after the VD has been created.

You can change parameters for VD definition except for RAID level and Stripe Size. On the WebBIOS Top Menu, click [Virtual Disks] and specify parameters in "Policies" frame, then click [Change].



Correct

Parameter	Description
WBack	Normal write back mode (recommended) While the battery is being charged, discharged, or failed, the controller operates in WThru (write through) mode.
BadBBU	Constant write back mode (UPS is required) The controller operates in write back mode regardless of the battery status. In this mode, the data in cache memory of the disk array controller may not be protected from being damaged if the power failure occurs due to charge/discharge or defect of the battery. Be sure to use UPS when specifying BadBBU for write policy.
WThru	Write through mode. The controller operates in write through mode regardless of the battery status.

IMPORTANT:

- While the Write Policy is set to BadBBU (constant write back), the data in cache memory of the disk array controller may not be protected from being damaged if the power failure occurs due to charge/discharge or defect of the battery. It is recommended to change the policy back to normal write back mode.
- If using the controller with BadBBU (constant write back) mode, be sure to use UPS to protect the data being damaged due to power failure.
- Be sure to specify BadBBU mode after making sure that the OS has been installed.
- While in BadBBU mode, "BBU disabled; changing WB logical drives to WT" is recorded in the system log when charging of discharging of battery has started. However, the controller operates with write back mode actually.